

尿道狭窄に対する 尿道形成術の極意

企画にあたって

尿道狭窄は泌尿器科医が日常診療で遭遇するごくありふれた疾患です。原因は怪我や尿道カテーテルによる尿道損傷、経尿道的手術の後遺症、感染や炎症などさまざまで、狭窄部位も外尿道口から膀胱頸部までどこにでも起こり得ます。短い単発のシンプルな狭窄だけでなく、尿道全長に広がる複雑な狭窄もあります。

このように尿道狭窄の臨床的シナリオは実に多様なのですが、泌尿器科医は長年にわたり内尿道切開や尿道ブジーといった経尿道的処置だけで戦ってきました。しかし、経尿道的処置は一時的に症状を改善するだけで、尿道狭窄を治すことはできないこと（むしろ尿道狭窄を悪化させるリスクが高いこと）が明らかになり、海外では尿道狭窄は開放手術（尿道形成術）で治療すべきと認識が大きく変わりました。海外の主要学会（AUA, EAU, SIU）は相次いで尿道狭窄に関するガイドラインを発表し、経尿道的処置の乱用を戒め、尿道形成術の積極的な適応を推奨するようになりました。一方、わが国では現在もなお“尿道狭窄は経尿道的処置で対応する”という考え方が根強く残っており、ほとんどの泌尿器科医は尿道形成術に馴染みがありません。

本特集では、すでに尿道形成術を日常診療の一環として取り入れていらっしゃるエキスパートの先生方に、さまざまな臨床的シナリオに対する尿道狭窄のマネジメントを解説していただきました。期間限定の公開ではありますが、動画による解説も術式の理解に大いに役立つと確信しております。

尿道形成術の醍醐味は、何といても手術の結果が患者さんの症状に直接反映されることです。よい手術ができれば患者さんは長年の排尿障害から解放され、とても感謝されます。“治った”ではなく“治した”という実感が強く感じられる手術です。本特集が尿道形成術に興味をもつきっかけになれば幸いです。

防衛医科大学校
泌尿器科学講座

堀口 明男

■動画配信のお知らせ

本号の特集では、本文中に▶動画マークのあるものにつきまして、関連動画を閲覧できます。頁下にごございます QR コード(二次元バーコード)をスマートフォン、タブレット PC などで読み取ってご覧ください。パソコンからご覧になる場合は URL を入力してください。なお、動画閲覧の際は以下の注意点を必ずお読みください。

【ご注意】

- ・動画を再生する場合、ご自身の携帯電話会社との契約に基づきパケット通信料が発生いたします。パケット通信料はご自身のご負担となります。
- ・ご使用のスマートフォン、タブレット PC などがパケット定額サービスなどに加入されていない場合、多額のパケット通信料が請求される恐れがありますのでご注意ください。
- ・フィーチャーフォンには対応しておりません。何卒ご了承ください。
- ・本特集の動画の公開期間は 2024 年 1 月末までです。